

伊勢地区医師会 准看護学校

准看護師養成所として、伊勢の地で100年以上の歴史を持つ伊勢地区医師会准看護学校。

大正5(1916)年に、私立三重看護婦学校として発足後、優秀な看護職員を多数輩出してきている。互いに励まし合い、切磋琢磨する学び舎を訪ねた。

はつきりとした目的意識で
看護の資格取得をめざす

患者やその家族の身近にいて、人々に安心感や希望を与えることのできる存在、准看護師。資格受験に必要な養成期間が短く、ライフステージを問わずに働きながら取得をめざすことができる資格で、看護職員不足を補い、近隣のクリニックのほか、高齢者施設や在宅サービスでもニーズが高まっている。

伊勢地区医師会准看護学校は、県内で唯一、准看護師の受験資格が取得できる学校だ。医師会が運営、サポートし、伊勢地区医師会館内にあり、2年間のカリキュラ



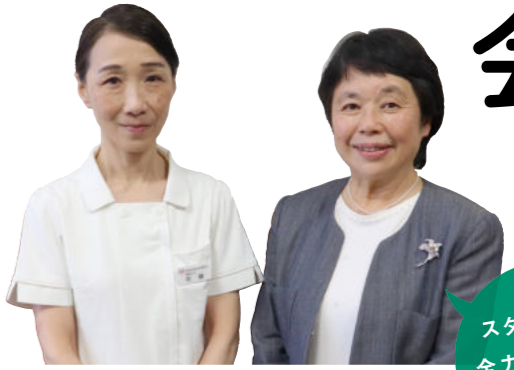
防災訓練と避難訓練を各年で実施。消防職員からの確かな指示を受ける

ムが組まれている。「目的意識が明確な生徒が多くいます。たった2年間ですが、されど2年。知識や技術だけでなく、その成長ぶりは明らかです。来週の実習に備えて、みなさん自主的に予習、復習をしているんですよ」と副校長の岩崎三安子さん。

今年度は1・2年生合わせて約40人が在籍。年齢層の幅は広く、

して働けることから、魅力度は高い。長い将来を考え、社会に求められる仕事と選ぶ人も少なくない。

経済的に自立できることもあり、一人親で通う学生もいる。「授業中に連絡が入り、急にお子さんを迎えるに行かねばならないこともあります。周りに助けを求められる人はいるのか、身寄りはいないのかなど、それぞれの状況に少し踏み込んで対応しています」と岩崎副校長。そんな親身な対応もあり、応募のきっかけは口コミが多いのだという。「ママ友さんから聞いた、保育園で顔を合わせる人の中にこの卒業生がいたり、知人や縁者をたよって来てくれてい



教務主任 佐藤美穂子さん
副校長 岩崎三安子さん

スタッフ一同
全力でサポート
します

10代〜50代が通っている。家族や親戚に看護師がいたり、過去に自分自身や家族が世話になった経験がきっかけに、看護職をめざす人が多いようだ。「新卒の方ももちろんですが、最近の傾向としてセカンドキャリアの方々の挑戦が増えていきます」と岩崎副校長。医療や介護の現場や他職種からの転職もあり、今までの経験を生かして学びを深めることができる。「介護職に就いている方が、看護師でないと処置できないという場面でもどかしい思いをすることがあります。資格があればもうちょっと違ったかもと感じ、次へのステップアップのために応募される方が結構います」。

「昔から看護師になるのが夢だったけど、いろいろな理由であきらめていました。最後のチャンスだと思って入学したのですが、充実した日々を過ごせています」とうれしそうに話す生徒もいる。

自身のライフスタイルに合わせて学べる

准看護師と看護師の違いは免許と業務の進め方で、准看護師は都道府県試験を経て免許を取得するのに対して、看護師は国家試験を受験する。そのため学校のカリキュラムも大きく異なる。

准看護学校では、1年生は午後6時の講義がメインで、病院での臨床実習は2年生からとなっている。「働いて収入を得ながら」「子育てをしながら」「自分自身の時間を確保しながら」といった希望を叶えながら通学することも可能で、2年間で資格を得られるメリットは大きい。中には、在学中にさらなるキャリアアップに目覚める学生もいて、自身の状況や働き方の



状況に合わせてさまざまな演習を行い、医療に必要な技術を学ぶ。(上)1回量やスプーンの向き・角度を考えて行う食事の介助。(下)患者の能力や自立度に合わせ、安全・安楽に留意して行う車椅子への移乗



希望に合わせて方向性を考えられる。「それぞれの生徒の意思を尊重し、さらに前向きな選択をする場合には、できる限り応えていきたい」とスタッフ一同でフォローする。

地域医療と結びつき 入学から就職までを支える

サポートするのはスタッフだけでなく、入学から就職までを伊勢地区医師会がバックアップしている。准看護師資格の試験合格率と就職率は100パーセントで、伊勢地区医師会管内の病院やクリニック、介護施設等での雇用が多く、また周辺市町にもたくさん卒業生が勤務している。「地域の病院やクリニックの先生たちとともに歩んできています」と岩崎副校長。地域の患者と長く携わり、身近で生活を支えることができるのは、地域医療のちからだ。

看護師に向いているのは、心身の健康管理ができ、メンタルコン

看護職をめざす在校生へのインタビュー



2年生
長谷川翔馬さん

津市出身の長谷川さんは、高校卒業後に松阪の病院で看護助手を経験後に入学。「母も姉も妹も看護師なんです。ゆくゆくは自分もめざしたいと思います」。一度は諦めた道だったが、病院にこの卒業生がいて、まずは准看護師の資格を勧められたという。「先輩方は仕事だけでなく患者さんやスタッフみんなに気遣いができる方ばかりで、この学校を選ぶにあたって全く心配はありませんでした。クラスメイトは将来のことを真剣に考えている人が多く、みんなが前を向いていて、先生たちも資格が取れるようにと必死に親身になってくれています」。経験を積み、専門的な知識を身に付け、次のステップへと一つひとつの課題と向き合っている。



基礎分野、専門基礎分野、専門分野のカリキュラムを学ぶ。図書室やPCスペース、ホールなどの施設も充実

また子育てをしながら、手に職をつけたいという人もいます。看護師の需要は全国的に高く、資格があれば年齢や居住地、経験年数にかかわらず採用される現状がある。特に女性の場合、出産・育児によるブランクがあっても、仕事を再開できる安心感は大きいだろう。内容はハードであるが、生涯安定



2年生
立木奈々美さん

長野県出身で志摩市に暮らす立木さん。ダンスの仕事をしてきた経験からアートメイクに興味を持ったが、施術するには看護師や医師の資格が必要だと知り、応募。「当時は子どもが保育園の年長でしたので、通える範囲で探したときにここが見つかり、オープンキャンパスに参加し情報を得ました。覚えることやテストも多く、思っていた以上にたいへんですが、医療についていると知れるし、今までの社会経験が違う人たちと一緒にいるので、いい刺激になっています」。学生の年齢層は幅広く、出産や子育ての経験があるクラスメイトも多いという。今は看護の仕事自体に関心が深まり、「採血が上手になりたいんです。夜勤もやってみたい」と意欲的だ。



キャンドルの光を手に、講堂で行われる進級式。ナイチンゲールが暗い夜も患者のためにろうそくを灯して看護したという言い伝えから「看護の光・看護の心の光」とされている

information

伊勢地区
医師会准看護学校
伊勢市勢田町613-12
☎ 0596-24-8228



オープンキャンパス

対象:高校生、社会人
日時 8月8日(木) 13:30~15:30頃
内容 説明会、体験、グループワークなど

オープンキャンパスの詳細は P.00 ~